



# 卒業を巡る物語

# 錦城生の共感呼ぶ

## 卒業生演出&脚本の劇 特別公演

3月10日(火)の放課後、多目的ホールにて、視聴覚演劇特別公演が行われた。錦城46回生の谷口航季さんが主宰する劇団 I-MG による特別公演『明日の卒業生たち』の様子をお伝えする。

「劇を見て良かった！」

公演『明日の卒業生たち』は谷口さんが脚本と演出を手掛けたもの。4月からは一般に向けて公演されるそう。錦城をモデルにした「明城高校」を舞台に、4つの時代を生きる人物が、恩師の死や友達とのすれ違い、親友との言い争いなど、卒業式を軸に、誰しもが共感できるような悩みを抱えずれ違いながらも、少しずつ進んでいく物語だ。

主役の中村幸子を演じたほりゆりさんは、NHK大河ドラマなどにも出演している。幸子の高校時代、中村サチコを演じたのは、舞台やミュージカルなどに出演している高校3年生の逢咲日彩さん。中村サチコは明城高校3年生で生徒会長。しかし卒業式当日、答辞を任されていたにもかかわらず、無断で卒業式をさぼってしまう。そして数年後の幸子のもとに、高校時代の友人から久しぶりの連絡が届く。知り合いからの強い勧めで、友人と再会す



目で行われる演劇に圧倒され、物語に引きこまれる

りゆりさんは、NHK大河ドラマなどにも出演している。幸子の高校時代、中村サチコを演じたのは、舞台やミュージカルなどに出演している高校3年生の逢咲日彩さん。中村サチコは明城高校3年生で生徒会長。しかし卒業式当日、答辞を任されていたにもかかわらず、無断で卒業式をさぼってしまう。そして数年後の幸子のもとに、高校時代の友人から久しぶりの連絡が届く。知り合いからの強い勧めで、友人と再会す

主役とその高校生時代役を演じたほりゆりさんと逢咲日彩さんに、公演後話を伺った。劇場とは違い、錦城多目的ホールのような小ホールでメイク無しで演じることは初めてという二人。また、今回観客が、劇をあまり見ないことのない高校生というところもあり、感情をのせつつも単語を立てて、聞き取りやすいように気を付けたという。一回きりの公演に全力で臨んでよかったと安心したように話してくれたお二人。逢咲さんは、サチコが友人を言葉で傷つけてしまい、後悔し悩んでいたように、自身も高校生活や芸能活動でたくさん悩んできたという。そしてサチコが家庭教師の温かい言葉で救われたように、サチコを演じたながら自らが救われた気分になったのだそう。



左：ほりゆりさん 右：逢咲日彩さん

## 「役と自分を重ね合わせて」役者さんインタビュー

卒業生にむけて、ほりゆりさんは「中途半端になっても、やりたいことが全部やってみたい方がいい。自分の道を進んでほしいです」と、逢咲さんは「迷うことはたくさんある。自分を信じて、今しかできないことをやってね」とメッセージを送ってくれた。

## 自分の興味から進路に向け踏み出す

### 1年進路探究 大学模擬講義

3月11日(水)3・4時間目、1学年の進路探究として大学の先生による模擬講義が行われた。23分野の中から、それぞれ興味のあるものを選び、講義を受けた。



様々な大学の先生が講義された

心理学分野では、日本社会事業大学の内田宏明教授が講義をしてくださった。講義ではスクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの違いなどが説明された。内田先生によると、カウンセラーは人間の内面に注目し、カウンセリングルームで面接等を行うが、ソーシャルワーカーは人間関係に着目し、家庭訪問などを行う外交官のような職業だといふ。

堂で相談を行っている。日本人と結婚していた外国籍の母が殺すが、人間などの高等生物にはほとんど害のないペニシリンが利用されている。その速さと変異、抗生物質の不適切な使用などから耐性菌が出現してしまうという。そのためにも「新しい抗生物質の開発や抗生物質の服用を正しく行うことが薬の専門家としての薬剤師の役割です」と医療業界での薬剤師の任務を教えてくれた。

今回の公演を行った劇団 I-MG を主宰する、錦城46回生の谷口航季さんに話をうかがった。『明日の卒業生たち』は2024年初演で、劇場を中心に公演を行っていたという。そんな中、初めて演劇を見た来たという中学1年生が、この劇を何回もリピートしてくれたことがあり、谷口さんは自分が描いていたものが届いたと感じたそう。そして、劇を通じて明日を生きる糧を見つけられる人が増えてほしいと思ひ、母校錦城での公演が実現した。

劇中に登場した時計台のエピソードは自身の在学中の出来事に重ね合わせたものだという谷口さん。その他にも随所に錦城高校での谷口さん自身の体験と重なる箇所が多いと語る。

谷口さんはこの劇を通して、「やり残したことはあっても、場所だつたりとかの先も残っているものはあるわけだ」と語り、

「経験は返ってくる」

「経験は返ってくる」

「経験は返ってくる」

## 自分の調査から改善策を提案

井藤さんはそれぞれ端末、LAN、校内ルータ、外部回線、インターネットサービスを検証し、不具合がある箇所を絞っていった。そして検証の結果、外部回線の不具合が見つかったと発表した。

また井藤さんは改善策をいくつか提示した。その1つとして、外部の回線の接続試験は「コマンド」という多数の端末に耐

えられない型の通信を用いている現状から、コマンド方式に移行させることで端末が混雑しても問題なくネットワークに接続することができると提案した。工事が不要で費用軽減も期待でき、実現度が高いのではと発表をまとめた。

62回生は夏頃から計画を立て、時間をかけて探究学習を行ってきた。来年度以降も自分の興味を深め、進路につなげていきたい。

「自分の生活リズムに勉強を合わせる」といふ言葉が、自分自身に響いた。自分自身の生活リズムに勉強を合わせることで、勉強の効率が上がるのではないか。自分自身の生活リズムに勉強を合わせることで、勉強の効率が上がるのではないか。

「自分の生活リズムに勉強を合わせる」といふ言葉が、自分自身に響いた。自分自身の生活リズムに勉強を合わせることで、勉強の効率が上がるのではないか。自分自身の生活リズムに勉強を合わせることで、勉強の効率が上がるのではないか。

## 身近な問題に焦点を当てて

### 2年探究発表発表会

3月13日(金)午後、社会探究の論文発表会が開かれ、2年生の各クラス代表が1・2年生の前で今までの探究の成果を発表した。

多目的ホールと第一体育館で探究発表をした井藤幸太さん(2K)は「錦城高校にお



発表会では発表者にQRコードから質問ができる制度が試行された

る校内ネットワーク遅延の原因分析と改善策の提案」という題名で発表。井藤さんは最近の錦城高校の「三上」が繋がらないという問題に焦点をあて、錦城高校のネットワーク接続の過程の中でどこに不具合があるかを独自に調査したという。

発表会では発表者にQRコードから質問ができる制度が試行された

発表会では発表者にQRコードから質問ができる制度が試行された

発表会では発表者にQRコードから質問ができる制度が試行された

発表会では発表者にQRコードから質問ができる制度が試行された

発表会では発表者にQRコードから質問ができる制度が試行された

## 練習の成果 華麗に輝く ダンス部定期公演開催

3月12日(木)と3月14日(土)、ダンス部の春公演「YOUR STORY」が開催された。最初に部員全員が揃いのスタイリッシュな衣装でダンスを披露し、続いてダンスのジャンルと学年ごとに分かれてのパフォーマンス。ロックダンスは、リズムに合わせたキレのある動きで会場を沸かせる。躍動感溢れる踊りは圧巻だった。男子のブレイクダンスは、仲間を飛び越えたり踏み台にしたリダイナミックな動きが迫力満点。技が成功した時には歓声があがった。



パワフルでダイナミックなダンス

ジャズダンスは、指先までそった優雅なダンスだった。しなやかで力強い姿や、バレエのような美しい様子に思わず魅了される。ビートに乗ったクールなパフォーマンスを見せたのはヒップホップダンス。観客席からは出演者の名前を呼ぶ声も上がった。最後は全員がきらびやかな衣装をまとって華やかなフィナーレで幕を閉じた。部長の荒井美音さん(2K)は「ダンス部の発表を見てくださりありがとうございました。この発表を通して私たちの思いを皆さんに伝えることができた嬉しです」と感謝を語った。